

book

最近、おもしろかった本

『センセイの鞆』

川上弘美 著 平凡社 1470 円(税込)

ほのぼのとする、不思議なラブストーリー

難しい本に飽きたら、こんな本で息抜きしてみてもいいかだろうか。

『センセイの鞆』は、「ツキコさん」と、ツキコさんの高校時代の国語の先生だった「センセイ」とのラブストーリーである。主役のツキコさんは現在 37 歳の独身女性。他方、センセイは、白髪を丁寧に染めつけ、革の大きな黒鞆を持ち、誰に対しても「ワタクシは」と丁寧な言葉を遣う、ツキコさんより 30 歳以上年上の老紳士である。

ツキコさんはお酒好きで、よく 1 人で駅前の一杯飲み屋に出入りしていたところ、同じようにそのお店によく来ていたセンセイと偶然再会する。以後、会えば一緒に飲むようになる。といっても、特に待ち合わせをする訳でもない。お互い手酌で飲み、お勘定も別々に支払う。でも、ツキコさんにとって、いつしか先生と過ごす時間はとても居心地の良い時間となっていく。



しかし、センセイは、「ツキコさん、その『ございます』の使い方はヘンですよ」といった風で、あくまで折り目正しい。どうもツキコさんに好意を抱いているようなのに、なかなか一歩踏み出す気配がない。2 人の不思議な関係がどう発展するのか気になって、最後まで一気に読んでしまった。

ツキコさんがなんだか可愛いのだ。一杯飲み屋に通う一見豪快な女性だが、人との付き合い方が不器用で、1 人でも大丈夫なつもりで大丈夫じゃない。身近にいいそうではないか。

ちなみに、ラブストーリーなどというと、男性はあまり興味を持たないかもしれないが、私がこの本を読んだきっかけは、事務所のボス（男性）が「これ、面白かったから」とぼんと渡してくれたことによる。

結末がちょっとせつないが、読み終わった後、ほのぼのとした気持ちにさせてくれる話である。

(会員 美和 薫)

『パリ，テキサス』

1984年／仏・西独合作／ヴィム・ヴェンダース監督作品
1984年カンヌ国際映画祭グランプリ受賞

愛すること、生きることの切なさ、あふれて

荒涼としたテキサスの砂漠を、赤いキャップをかぶり、スーツにネクタイといった奇妙ないでたちで、主人公の男は、登場する。男は、4年もの間、乾いた砂漠を彷徨っていた。それが、長いのか短いのか、男には、もはや感じる心すら残っていない…。

私が、初めて、この映画を観たのは、確か高校生の頃だった。当時は、その映像のあまりの美しさに圧倒されると共に、ただただ、泣いた。愛の何たるかもわからないくせに（今もわからないが）、男の愛の切なさ、哀しさ、ダメ男ぶりがひたすら胸に迫った。また、私の涙に迫り打ちをかけるように、赤いセーターを着たナスターシャ・キンスキーが惚れ惚れするほど美しく、その美しさが乾いた映像と共に心に浸み込んだ。

この映画には、人の死や、事故や、戦争のようなショッキングなドラマは何もない。退屈なほど淡々と続くテキサスの乾いた砂漠の風景。普通の中年男と、若くて美しい女が恋をして、一緒に暮らし、子供が産まれる。ひとつ、困ったことは、男が女を愛しすぎてしまったこと。愛しすぎた男は、女

と一緒にいるために仕事を辞め、妄想し、嫉妬に狂い、そして全てが壊れてしまった。その時、はじめて男は遠くへ行きたいと思う。名前も無い、言語も無い、通りや町の名も無い、どこか深くて広い所へ行ってしまうたいと……。

息子と再会し、自分を取り戻しかけた男は、ヒューストンに、女を探しに行く。探し当てた女はのぞき部屋で働いていた。男はそこへ入る。のぞき部屋から、男は、マジックミラー越しに女の姿を見ることができ、女は男を見ることができない。ミラーに映る男の顔と女の顔が、ぼんやりと、重なる。男が、愛していたのは、ミラーに映る自分自身だったのか、それとも、その奥に実在する女だったのか…。「人が人を愛する」ことの喜び、哀しみ、そして孤独とエゴ。愛すること、生きることの切なさが、この映画には、あふれている。

女と再会した男は、子供を女に託し、再び旅に出る。人は、自分自身と向き合うため、本当に人を愛するために、さすらい続けるものなのかもしれない。ライ・クーダの音楽も素晴らしい。
(会員 西浄 聖子)

図書館だより 「内部告発」—文献紹介(最近の主な雑誌から)

1. 法制化の動きについて

内部告発者保護法の展望(秋田一恵, 刑事法5号), 公益通報制度の体系的立法化に向けての一考察—内部告発者保護から公益通報制度へ(白石賢, ジュリスト1234号), 内部告発者〈公益通報者〉保護制度(宮本一子・柘植直也, 自由と正義54巻2号), 公益保護通報者をめぐる現状と課題(宮本一子, 労働法律旬報1545号), 内部告発権の法理検討と法制化に向けての課題(豊川義明, 同前), 内部告発者保護の動向(森下忠, 判例時報1817号), 資料: 内部告発者保護法制についての意見書(労働者の権利249号), 資料: 内部告発問題についてのアピール(同前250号), 資料: 21世紀の消費者政策の在り方について(中間報告抜粋, 国民生活審議会消費者政策部2002年12月, 労働法律旬報1545号), 同報告についての意見書(抜粋, 日本弁護士連合会2003年1月18日, 同前), 資料: 公益通報者保護制度の具体的内容について(国民生活審議会2003年5月19日, 同前1552号)

2. 海外の状況について

検討: アメリカ合衆国における「内部告発(Whistleblowing)」の法的保護(山川隆一, 労働法律旬報1552号), イギリス: 保護される公益開示(内部告発)を理由とする不利益

取扱い(有田謙司, 労働判例853号), イギリスの公益情報開示法(國武英生, 労働法律旬報1545号)

3. 企業倫理・コンプライアンスと内部告発について

企業倫理と内部告発制度(山口謙吉, NBL748号), 企業の内部告発システムの構築(小澤徹夫, 同前750号), 監査役が内部告発の受け手に(家近正直, 監査役467号), 内部通報窓口としての法律事務所(松井秀樹, 同前), 内部告発についての考察—監査役監査と内部統制との接点(鳥羽至英, 同前469号), 内部告発と監査役—コンプライアンスの視点から(国谷史朗, 同前475号), 金融機関におけるコンプライアンスの諸問題—内部監査・内部統制・内部告発(伊藤暢裕, 金融法務事情1669号)

4. その他論文

○労働契約における労働者の付随的義務の現代的展開—労働者の秘密保持義務と内部告発者保護の調整を中心として(内藤恵, 慶大法学研究76巻1号)

○内部告発目的の顧客情報取得・漏洩と懲戒解雇(藤内和公, 民商法雑誌128巻3号)

(合同図書館事務局長 梅原成子, 事務局 白川智行)